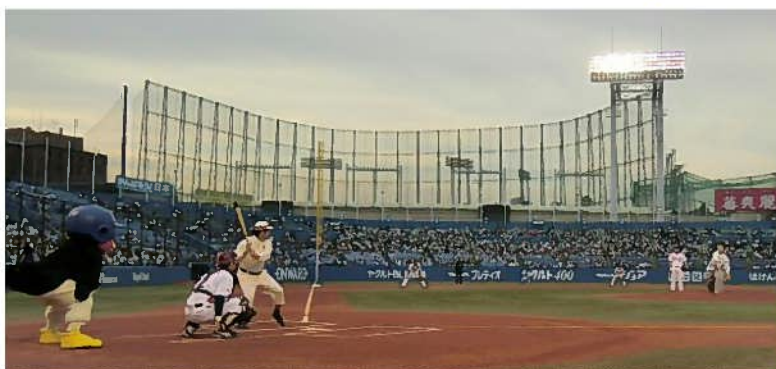


～松山の思い 届けたい～

ふるさと 松山便

「ふるさと松山便」では、四国・松山の旬な情報をお届けするとともに、皆さんの交流の場として、その他様々な情報を発信していきます。

6月号 Vol.33



始球式でバッターの中村愛媛県知事に一球を投じる野志松山市長



バックスタンドで放送された松山市 PR 映像



愛媛 FC のキャラクターも特別参加



松山の PR に努めるマドンナ大使

—今月の表紙—

「松山 day in 神宮球場」

6月3日、セ・パ交流戦の1日を「松山デー」と銘打って、神宮球場でヤクルトと日ハムが、熱い戦いを繰り広げる中、松山市が観光キャンペーンを実施しました。

松山ニュース(5月)

- ・「まつやま農林水産物ブランド」認定品の一つ「活媛あなご」が継続的に出荷できなくなったとして、生産者が認定を取り下げ、同協議会で承認される(10日)
- ・平成22年度「松山市のふるさと納税」は、988万円(349件)で、前年度に比べて約2割増(13日)
- ・人気デュオ「トワエモワ」の芥川澄夫さんと白鳥英美子さんが、愛媛県のイメージ向上を図るため観光PRなどを行う「伊予観光大使」に任命される(25日)
- ・道後温泉本館に続く「第3の外湯」構想について、入浴の伝承がある聖徳太子が活躍した飛鳥時代の建物をモチーフにした「太子の湯」の原案を同温泉旅館協同組合がまとめる(28日)
- ・松山市が「高速料金割引とドラマ『坂の上の雲』放映効果で、平成22年に同市を訪れた観光客が前年より63万人多い588万4000人(12割増)と発表。(29日)

—特集— ～野志松山市長が見た 東日本大震災の爪痕～

「一日でも早い復旧・復興を願い、被災した地域にできる限りの支援を続けたい」

○お知らせ

「中核市東京事務所ご当地まんフェア2011」

東京事務所を開設している中核市20市が、それぞれの都市の魅力を東京で「発信」するために行う観光キャンペーンです。松山市もこれに加わり、特産品(ポエム)を販売します。ぜひ、お越しください。

日 時:平成23年7月6日(水)～7月12日(火) 9:30～17:00(初日は11:00から)

場 所:東京都庁第一本庁舎2階 イベントコーナー(全国観光PRコーナー)※お問合せは当事務所まで

一特集一

「野志市長が見た 東日本大震災の爪痕」

「一日でも早い復旧・復興を願い、
被災した地域にできる限りの支援を続けたい」

3月11日の東日本大震災以降、一日も早い復興を願い、全国・世界的に被災地への支援が行われています。

そのような中、松山市として今後において的確な支援を行うため、6月5日・6日、野志松山市長が南三陸町と会津若松市を訪ねました。

訪問目的は

市長 大震災直後から6月にかけて、南三陸町には本市保健師などの職員を継続的に60名以上派遣し、積極的な支援活動を行ってきました。会津若松市は、今年5月に横須賀市でのイベントで菅家（かんけ）市長にお会いした際、原発事故の風評被害により、農産物や観光産業などに大きな影響を受けていると伺いました。そこで、現地の状況視察はもちろんですが、被災地への新たな支援策の協議と、少しでも被災地に元気を届けたいとの思いから、日程を調整しました。



「津波で街が消えた…」南三陸町の現状を目の当たりにし、言葉を失う野志市長

被災地を訪ねて

市長 新幹線を降りて、車で南三陸町に向かったのですが、峠を越えて町内に入ると様相は一変。道の両脇に津波によって流され散乱するがれき、また、寸断された道路や線路、倒壊した家屋、横たわる大型船舶。とにかく、あるべきところにあるものもなく、ないはずのところに、ないものがある。テレビや新聞報道等で想像はしていましたが、それをはるかに越える光景に慄然としました。



鉄骨だけが残った南三陸町の防災対策庁舎

佐藤南三陸町長の会談では

市長 佐藤町長は防災対策庁舎（右写真）で大津波に襲われながらも、防災無線のアンテナにしがみつき九死に一生を得て、公務に復帰した後には多くの職員が犠牲となる中で日々復興のために駆け回っておられます。当日は本市からの支援についてご説明させていただいた後、「ことばのちから」の懸垂幕と、市民から届いた応援メッセージをお渡ししました。佐藤町長からは、これまでの支援



佐藤町長（右）との会談

は、これまでの支援

に対するお礼と、応援メッセージに感謝のことばをいただきました。会談後佐藤町長に、避難所となったベイサイドアリーナをご案内していただき、救援物資の保管状況などを見せていただきました。限られた設備の中でいかに被災者のニーズにあった支援ができるのか、そのあり方など、大変貴重なお話を聞くことができました。

会津若松市では

市長 松山城を築城した加藤嘉明に縁のある会津若松に元気を届けようと、「ことばのちから」の懸垂幕などを届けました。菅家市長は、「嘉明公は会津大地震で被災した「鶴ヶ城」を見事に再建した。四百年の時を経て、野志市長が来られ、会津を元気づけてくれたことに、不思議なご縁を感じる」と述べられました。



菅家市長にことばの懸垂幕を贈呈

今後の支援について

市長 南三陸町には、提供要望のあった給食運搬車や給水車両などを、台湾・台北市松山慈祐宮（じゅうぐう）などから預かった義援金を活用して寄贈するとともに、職員用の夏用作業着やパソコンを送ります。また、会津若松市においては、本市で秋に開催予定の「産業まつり」で会津の野菜などの販売を行い、少しでも復興のお手伝いをさせていただきます。被災した地域が少しでも元気に、そして被災した方々が普通の生活に戻れるように、今後もできる限りの支援をしていきたいと考えています。

お問い合わせ 松山市 東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目4-1 日本都市センター会館11階

TEL 03-3262-0974 E-mail: tokyo@city.matsuyama.eh.jp